

開催地名	大阪府枚方市
開催日時	令和6年1月30日(火) 14:30～15:30
開催場所	輝きプラザきらら 7階たまゆらイベントホール
語り部	山縣 嘉恵 (宮城県東松島市)
参加者	市危機管理対策推進課、地域住民(コミュニティ協議会、自主防災組織の代表者) 100名
開催経緯	本市は、自主防災組織が45組織結成されており、避難所設営・運営に関する訓練や、防災意識の向上に関する訓練については定期的実施しているが、1～2年で役員交代となる組織が多いことから、継続して避難所設営・運営訓練を実施し、市民や自主防災組織が、自らの地域の避難所を設営・運営するという意識の向上を図る必要があるため。
内容	<p style="text-align: center;">『そなえとまちづくり』</p> <p>(1) 東松島について</p> <p>2005年に矢本町と鳴瀬町が合併して東松島市となった。ブルーインパルス航空自衛隊松島基地がある町として有名である。市民協働のまちづくりを始め、東松島市まちづくり基本条例で行政区長制度、町内会の制度を廃止して地区自治会制度にしていくという準備の中で震災に見舞われたが、復興に向かって非常に機能した経緯がある。この自治会制度のおかげで2017年に市内で69もの自治会が発足したのである。人口が震災前は43000人から震災後38000人へと減少した。地域自治組織で1番大きな役割を担っているのが、市民センターになり地域自主防災の拠点になり、また避難所にもなり機能しやすくなった点だ。</p> <p>(2) あの日のこと</p> <p>自宅は野蒜海岸から600mの地点に位置していた。家は津波が直撃したであろうと分析され、案の定土台にだけになっていて流失という被害であった。地震発生直後、夫は職場、息子は小学校、義母は離れに居た位置関係であったため、まず義母に息子を迎えに行くからと避難準備の警告を告げ小学校へと向かった。小学校で息子を引き渡してもらい地区センターに到着後、息子をおいて自宅へ義母を迎えに行くが、途中近所の男性から津波が来ると言われ、改めて緊張が走ると共に自分の中の避難のスイッチが入り、その男性も一緒に自宅に来てくれて有り難かった。自宅へ義母を一目散に迎えに行った後、義母の実家までは車を使って移動した。そこから徒歩で地区センターへと向かい息子と再会。その後小学校へと避難した。このとき時間にすると15時40分頃であった。小学校の体育館の外にいたが、津波を認識して急いで校舎の3階へと駆け上がり、かろうじて助かった。野蒜海岸では10.35m、野蒜小学校は海岸から1.2kmの地点で3.5mの津波が押し寄せた。</p> <p>(3) 避難所生活から学んだ事</p> <p>そもそも指定されている避難場所は、設備的な問題や備蓄など運営は大丈夫なのか。という再確認や重要性、地域住民が主体となって動くこと、役員さんが発災時に揃っている確証は一切ないため、避難所へのアクセスや備えが大事ということに気づいた。</p> <p>発災直後の安否確認は大変ではあるが最も重要なことである。アナログではあるが、</p>

紙とペンは役に立つ。また震災前から顔の見える関係性の構築や、地域の女性の情報通な性格が安否確認にかなり役立った。だが、避難所は常に物が足りないので揉め事を防ぐためにも情報の共有はかなり大切である。また物資が足りないので他に避難出来る場所がある人は、別で避難しようという『分散避難』の意識、物資を配る際には女性の視点を生かすことも重要である。他、衛生面の配慮と工夫としては、感染症予防として土足禁止エリアを作ることや、リーダーや役員さんを孤独にさせないような、皆に情報の見える化が大切である。

(4) 震災を経験して思ったこと

先ず反省点として、発災前に避難場所を幾通りも認知できていなかったことが挙げられる。次に後悔、津波避難はより高台へ。という認識を甘く考えており、津波からの避難想定で校舎の2階以上に避難する訓練を、学校と地域で一緒にしたことがなかったために、340人が避難していた体育館では13人もの尊い命が失われてしまった。最後に事前に備えること、意識することが重要である。マニュアルの共有と確認も必要であるが、家の中の地震対策、家具の固定や高いところに物を極力置かないこと。避難時に待たせない、待たない、戻らないということ。避難場所は災害ケースによって、使えないところがあると知っておくことも重要である。また普段からコミュニケーションを取り、より密な関係性の構築が大事である。いざという時に挨拶もしない人に助けてもらえるほど、冷静な判断ができるとは限らない。以前から津波避難の際は、車での避難は好ましくないとされているが、車を利用した避難も想定して訓練や、学校と地域と連携した訓練が必要である。

(5) 命を大切に (総括)

東日本大震災の教訓から市が行ったこととして、津波シミュレーションによる防災集団移転の促進事業、避難所の場所の見直しや自主防災組織の強化、備蓄倉庫の見直しなどが挙げられる。命を守ることを最優先に、日々コミュニケーションを取ること、関係性の構築がかなり大切だと感じた。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、東日本大震災の被災状況やその後の行動、その行動等への反省点や備えの大切さなどについて、具体的なお話を聞くことができました。本市には津波の被害想定は無いとは言え、非常に参考となる話が多く、参加者も大いに満足しておられた。講演で学んだことを、自主防災組織で行う訓練等に取り入れ、より実践的な取り組みを行い、地域防災力の向上に繋げていきたい。